

秘

亞細亞
關稅高收第一六一五二號ノ二

第一課

和昭五年七月 拾日 發受

昭和五年十一月四日

關東廳警務局長

拓務次官
陸務次官
內務省
外務省
內務省
指應府
奉天總領事官
在京官
威威威威威威威威

張學良ノ副司令就任ニ關スル考察

(蔣、張、合作ノ意義ト其將來)

關東廳警務局高等警察課

(滿鐵ノ考察)

張學良ハ曩ニ南京政府ノ懇請ニ應シ東北邊防軍ノ一部第一第二軍約十
万ノ兵ヲ關内ニ進メ更ニ去九日遼寧ニ於テ中華民國陸海空軍副總司令
ニ就任シタ、而シテ東北關内出動ノ名目ハ和平總戰ニアルカ故ニ此趣
旨ニ基キ使者ヲ反蔣派領袖蔣閻馮兩氏ノ許ニ派シ停戰、下野、中央服從
ヲ勸說シテイルカ和平統一ノ目的達成ノ爲近ク東北邊防軍司令ノ職ヲ
張作相ニ托シ自ラ北平ニ行營ヲ進ムヘシト傳ヘラレテイル此事實ハ現
支那政局ニ重大ナ影響ヲ及ホスモノテアルカラ一應ノ考察ヲ加ヘルコ
トトスル

(一)

學良ノ副總司令就任ハ東北軍ノ關内出動、和平通電、馮閻兩氏ニ對ス
ル下野勸告等ノ行動ト相聯關シテ蔣張合作ノ形式テアル之ヲ半封建性

(二)

軍閥ノ本質カラ見ルト割據勢力ノ妥協的聯盟テアルコトハ一昨年ノ易
轍ト同一テアルカ此兩者ヲ比較スルト兩者トモ軍閥イゴイズムヲ基礎
觀念トスル點ニ於テ同一テアルカ易轍ハ單ナル消極的ナ自家保存テア
ルニ反シ今次ノ副總司令就任ハ積極的ナ爭鬪策動ノ一テアル點ニ於テ
格段ノ相違カアル而シテ更ニ此合作ヲ中央(蔣介石)及東北(張學良)
ノ利害カラ觀ルト、中央側ハ總戰即チ反蔣勢力ノ掃蕩ヲ東北側ハ地盤
ノ獲得ヲ目的トスルモノテアル此レ即チ今次ノ蔣張合作ノ本質テアツ
テ此聯盟ハ此本質ノ發展ニ依テ活躍シ且ツ消滅スルテアロウ此事情ヲ
説明スル爲ニハ先ツ東北出兵ノ經緯ヲ檢討スル必要カアル
イ、反蔣戰爭ノ意義、先ツ前提トシテ過去九ヶ月ニ亘ル反蔣戰爭ノ如
何ナルモノナルカラ繰返サネハナラヌ反蔣戰爭ヲ中央側ニ云ハセル
ト反動的反革命勢力ノ掃蕩テアル詳シク云ヘハ訓政ノ第一要件タル

(三)

地方的軍事勢力―私兵―ノ編遣ニ應セサル反動份子即チ反革命勢力ノ打倒テアルカ此レヲ反蔣派ニ云ハシムレハ國民黨獨裁並ニ中央政府ノ看板ニヨル蔣介石ノ軍事の專政ノ打破即チ嚴正ナル國民黨革命綱領統理遺囑ノ擁護テアル併シナカラ此等ハ所謂兩勢力ノ用兵ノ大義名分テアツテ必スシモ戰事ノ實質ヲ現ハスモノテハナイ即チ蔣介石ハ中央黨部ノ首席テアリ、國民政府ノ首席テアリ、陸海空軍ノ總司令テアルカ其本質ニ於テハ改組派ヤ共產黨ノ云フ如ク依然トシテ半封建的ナ私兵ヲ擁スル割據勢力テアルコトハ勿論テアル從テ其所謂編遣減兵ノ實行ニ際シテモ極力保存セラレタ而シテ反蔣派ノ馮閻ノ勢力モ亦同様ノ半封建的軍事勢力テ唯蔣カ中央政權ノ把持者テアリ反蔣派カ地方政權ノ把持者テアル點ニ於テ差違ヲ認ムルノミテ其私兵ヲ擁シ政權ヲ獨占スル所謂軍閥タル點ニ於テハ同一テアルカラ

(四)

編遣ニ際シテモ亦同様ニ自己勢力ノ保存ヲ第一ノ要件トスル而シテ中央統一ノ實ヲ擧ケントスル、編遣ト此等ノ軍閥性トハ當然衝突シナケレハナラヌ此衝突コソ即チ道次ノ反蔣戰爭ノ本質テアル
□、東北ノ立場、而ルニ此反蔣戰爭ハ最初殆ント互角ノ勢ヲ以テ開始セラレタ而已ナラス反蔣派ノ濟南占領ハ湖南江西方面ニ於ケル共匪軍ノ跳梁ト共ニ一時中央軍ノ旗色ニ暗影ヲ投ケタ此時局ニ於テ張學良ハ第三勢力トシテ東北ニ鳴リヲ鎮メテ居タ從テ此勢力ノ向背ハ本戰事ノ勝敗ニ重大影響ヲ及ボスヘキモノテアルコトハ言フ迄モナイ蔣派並ニ反蔣派カ死力ヲ盡シテ東北抱込ミニ狂奔シタコトモ當然デアアル、併シ學良ハ戰局ノ前途ニ見極ハメカ附カヌ間斷シテ洞ヶ峠ヲ下ラナカツタ何故ナラハ學良ハ東北邊防軍司令官トシテ中央政府ノ命ニヨツテノミ其任ヲ盡クス軍官テナクテ私兵ヲ養ナヒ地方政權ヲ

把握スル半封建性軍閥者テアルカラ他ノ軍閥抗爭ニ參加スル限リ其
本質トスル軍閥性イゴイズムヲ満足セシムル何物カノ利益ヲ必要ト
スル然ルニ殆ント互角ノ對立戰ニ於テ輕々シキ向背ハ利益ハ勿論、
現勢力サヘモ失ハナケレハナラヌ危險スラ懸念セラルルカラテアル
カクシテ學良ト其一派ハ保境安民ノ名ノ下ニ中立ヲ維持シタノデア
ル、換言スレハ主義的ニ保境安民デアッタノテナク利害打算ノ結果
トシテ中立ヲ守ッタノテアル

ハ、蔣張合作ノ東北ニ與フル利益、然ルニ南北對峙ノ均勢ハ中央軍ノ
濟南奪回ニヨツテ破レ次第ニ南方ノ有利ニ傾イタ之ニハ多クノ理由
カアロウカ其主タルモノハ、(一)北方軍費ノ供給甚タ豐ナラス、(二)從
ツテ各聯軍ノ士氣沮喪セル上地方民ニ對スル苛斂誅求ハ民衆ノ反感
ヲ高メタコト、(三)而シテ戰線ニ於ケル不振ノ情況ハ直チニ北京政府

(四)

ノ内部結束ヲ弱メタ事等デアロウカ、之ニ反シ中央軍ハ其軍費ニ窮
乏セル點ハ同様テハアルカ、(一)上海海關收入ノ剩餘金其他煙酒稅等
幾分ノ公債擔保ヲ所有シ且浙江財閥ノ支援モ或ル程度ニ保チ得タコ
ト、(二)ニハ中央政權タル關係ハ武器、銃砲彈ノ買入レニ便宜ヲ得タ
コト並ニ、(三)諸種ノ懸案解決ニ迫ラルル外國ニ對シ讓歩ヲ餌ニ有形
無形ノ支援ヲ得ヘキ便宜ヲ有ツタコト等ノ事情ハ河南山東方面ニ於
ケル雜軍ノ買收ハ固ヨリ東北ノ態度ヲ牽制シ戰局ヲ有利ニ導クコト
ニ與ツテ力カアッタ

(五)

斯ル事情テ戰局ハ兎モ角均勢カ破レテ南方ニ有利ニ傾イタ、此時ニ當
ツテ中央ハ東北ニ對シテ河北ノ地盤提供及關内出動費用(二千万圓内
五百万元現銀、殘餘ハ海關其他ノ收入)ノ中央負擔等ノ好餌ヲ以テ中
央トノ合作ヲ勸說シタ之ト同時ニ北方モ亦殆ント同様ノ好條件ヲ以テ

(4)

北方政府委員加入ヲ要請シタカ東北トシテハ已ニ勝敗ノ數ノ略分明セ
ル情況ニアツテハ中央勢力ニ反抗シテ北方ニ味方スルコトハ實戰ヲ必
要トスルニ反シ中央ニ味方スルコトハ地盤ヲ獲ルコトハ同一ナルニ拘
ハラス恐ラク一兵一彈ヲ費ヤサスシテ其目的ヲ達成シ得ル見込カアル
軍閥性イゴイズムカ躍如トシテ動イタコトハ蓋シ必然ノコトナアルハ
而已ナラス東北ニハ宿病カアルソレハ楊宇霆死後常ニ學良ノ夢ヲ驚ロ
カニ叛亂份子ノ活動テアル此等ノ份子ハ失官高級軍官カラ下請武學堂
畢業ノ下士卒間ニ散在スルノミナラス于學忠軍ノ如キ改編軍カ邊境ニ
屯シ南北開戦以來切りニ參戰論ヲ鼓吹シテイル此等ハ放任スレハ必
南北何レカニ利用セラレテ不測ノ變亂ヲ惹起セントモ限ラヌ何レニセ
ヨ適當ノ措置ヲ講シナケレハナラヌ、此安全ヲトシテハ關内出兵ハ一
舉兩得ノ極メテ屈寬ナモノテアル而シテ最後ニ學良ノ中央合作ヲ助成

(5)

シタモノハ學良ノ革命的ユートピアテアル、コレハ和平通電ノ説明ト
シテ大公報及醒時報記者ニ語ツタ談話中「自今東北ハ中國革命ノ發祥
地テアル」トカ又ハ「東北出兵可比中原問鼎」等ノ言語ニヨツタモ察
セラルル如ク若キ張學良ニハ支那中原ニ名ヲ求メントスルユートピア
カアル、此爭鬪的空想ハ又理智的打算出兵ニ愛國、救民、革命等ノ色
彩ヲ與ヘテ美シイ幻想トシテ學良ノ眼前ニ彷彿シタコトデアロウ、惟
フニ中央カ此好條件ヲ提供シタノハ第一中央モ最早政治的ニ且ツ財政
的ニ之レ以上戰ヲ續クル勇氣カナクサリトテ少ナクトモ北方戰局ヲ終
結セシメナケレハナラヌ必要ニ迫ラレテイタ、未レハ假令東北トノ合
作カ決シテ統一革命ヘ一步ノ進出トモナラヌノミナラス或ハ場合ニヨ
レハ虎ニ代ユルニ狼ヲ以テスル如キ結果ヲ齎ラス如キ虞アリトシテモ
兎モ角モ當局ノ總戰カ絕對ニ必要デアツタカラテアル、而シテ此等ノ

事情ハ學良ニ取ツテハ、(一)打算的ニ、(二)部内勢力整理ノタメ、(三)ニハ
若キ軍將ノ革命的ユートピアノ實現ノ爲メ、關内出兵、中央合作ヲ決
意セシメタノテアル
此等ノ事情ヲ綜合セハ今次ノ蔣、張合作ノ本質カ如何ナルモノテアル
カハ自ラ明カニ爲シ得ルデアロウ

(九)

然ラハ此合作カ將來ノ政局ニ於テ如何ナル機能ヲ發揮シ且其ノ機能カ如
何ナル期間存續シ得ルヤ？ 此問題モ亦同様ニ合作自体ノ意義カラ推論
スルコトカ出來ル。先ツ現政局ニ對スル本合作ノ機能カラ云ヘハ、已ニ
反蔣領將ハ東北ノ和平通電ニ對シテ停戰ヲ決行シ、且ツ其ノ公正ナル處
置ヲ俟ツテキル。假令中央派カ反蔣派ノ主張スル如ク、極メテ公正ナル
條件ノ下ニ和平會議ヲ開催スルヤ否ヤハ疑問トシテモ、最早反蔣派ハ武
力ヲ以テ積極的ニ其ノ解決ヲ強ユル實力ヲ失ナツタコトハ明ラカテアル
從ツテ今後ニ於ケル反蔣派ノ態度ハ、閻錫山ノ通電ニアル如ク寧ロ退イ
テ三合ヲ避ケ、先ツ自家勢力ノ保存ヲ圖リ、徐ロニ捲土重來ノ機ヲ待ツ
ヨリ他ニ道ハナイ、從ツテ本合作ノ成立ニヨツテ時局ハ正ニ政治的解決
ノ時代ニ入ツタト解シテ差支ヘハナイ。只問題ハ今後和平會議ニ就テ行

(十)

ハル政治的編造カ如何ナル程度ニ徹底シ得ルヤノ點ニカカルノテアル
カ、元來本合作ノ成立カ總戰ト地盤獲得トノ慾望カラ出發シタモノデア
ル限り、張學良ハ其ノ運命ヲ堵シテ迄、反蔣勢力ノ掃蕩ニ専念スルモノ
トモ思ヘナイ。現ニ危道豐等ヲシテ行ハシメテキル、下野勸告、ノ程度
ヲ出テヌテアロウト思フ。何故ナラハ東北トシテハ必ラスシモ此等反動
份子ノ全滅ヲ必要トセサルノミカ、或ル份子ニ對シテハ他日蔣介石ニ對
スル索制勢力トシテ保持スルコトノ必要ヲモ知ツテキルカラテアル。

山西派又ハ石友三派ノ如キ何レニセヨ本合作ハ軍事カラ政治ヘノ新ラ
シキ「エボツク」ヲ劃シタコト丈ケハ確實テアル。

次ニ考察ノ題目タルヘキハ、本合作ノ機能カ如何ナル限度ニ存續シ。如
何ナル場合ニ消滅スルデアロウカトノ問題デアル。此點モ亦本合作ノ本
質カラ推論シテ大体ノ傾向ヲ判斷スルコトカ出來ル

(出)

(出)

即チ南方ハ先ツ本合作ヲ總戰ノ手續トシテ利用シ、東北ハ地盤擴張ノ手
段トシテ利用シタコトニヨツテ差當リノ目的ハ達成セラレタ。而シテ今
後ノ問題ハ中央カ編造實行ニ對シテ何ノ程度マテ本合作ヲ利用スルカ、
而シテ東北ハ地盤擴張ノ報酬トシテ如何ナル限度マテ中央ノ所謂編造統
一ニ努力スルカ、他ノ言葉ヲ以テ云ヘハ中央ノ編造ニ對シテ如何ナル程
度ニ其ノ軍閥性イゴイズムヲ犠牲ニ得ルヤノ點ニカカハル。勿論現在ニ
於ケル中央ノ勢力ハ極メテ危機ニ瀕シテキル。例ヘハ若シ東北カ積極的
ニ反蔣派ニ加盟シタナラハ或ハ瓦解シタカモ知レスト思ハレル程度ニ傾
イテキルカラ、當分ハ所謂民力培養ノ名ニ於テ第一ニ其ノ實力ノ回復ヲ
圖ル爲、和平會議ノ終了ヲ俟ツ迄モナク、四次全代大會ノ手盛ヲ繰返
シ、國民黨ノ指導權ヲ新タナル形式ニ於テ約法其ノ手ニ収ムルコト
ニ苦心スヘク、從ツテ統一ノ爲ノ編造モ當分ノ中ハ第二義的ノ妥協合作

(四)

ノ限度ヲ超ヘテ、第一義的ニ地方割據勢力カラ根絶セントスル餘裕ヲ有テ得ナイテアロウ。而シテ假令蔣介石ニ其ノ決意ト準備カアツタニシテモ新資本主義ヲ根本イデオロギ―トスル現國民革命ノ綱領ヲハ中國ノ經濟制度ノ革命ナキ限り、眞ノ統一ハ望ミ得ナイ狀態ニアルカラ、コ當分ハ、第二義的ナ妥協合作ヲ保持スルヨリ他ニナイテアロウ。此ノ意味ニ於テ、本合作ニ對スル東北側ノ條件ハ差當リ尊重セラルルテアロウカラ、東北側ニ於テ反中央ノ霸氣ヲ起サヌ限り、兎モ角合作ハ繼續スルモノト觀ネハナラヌ。併シナカラ、合作ハ要スルニ妥協テアツテ統一テナイ。蔣ト張ハ依然トシテ半封建性特質ヲ脱却シ得ナイカラ「アングゴニズム」ハ依然トシテ潛在スル、故ニ合作者ノ一方カ他ノ一方ノ利益ヲ無視スル場合ハ合作ハ衝突トナツテ破壊セラルヘキハ當然テアル。而シテ、假令ハ若シ南京側カ、現反動份子ヲ根絶シ更ラニ中央勢力ニヨ

(五)

ツテ統一ノ實ヲ擧ケンカ爲、東北邊防軍ニ對シテモ第一義的ナ編遣ヲ追ル場合アリトセハ、本合作ハ破壊セラルルハ勿論東北ハ此ノ合作ニヨツテ軍閥抗爭禍中ニ捲キ込まルルニ至ルハ當然テアル。固ヨリ東北側ト雖モハ之レニ對シテハ當然周到ナ警戒ヲ有ツテキルカラ、此ノ場合ニ對スル策トシテハ或ル種ノ「緩衝勢力」ヲ保存セントシテキル。張學良ノ反蔣領將ニ對スル下野勸告カ極メテ微溫的テアリ、且ツ其ノ關内出動カ一面反蔣派擁護ノ如ク見ユルハ此ノ邊ノ消息ヲ物語ルモノテアル。此此等ノ事情ノ他尙ホ一ツノ分裂要素トナルヘキ事情カアル。夫レハ東北勢力ノ内部的結束ノ動搖カ夫レテアル。ソシテ其ノ動因トシテハ東北舊派カ第一ニ數ヘラルル。最近傳ヘラルル所ニヨルト合作反對ノ聲ハ已ニ軍費徵收ノ問題ニヨツテアケラレテキルト云フ。即チ中央ハ東北ノ關内出動ニ對シテ二千萬元ノ支出ヲ約シ、内五百萬元ハ現銀ニテ支給シ、他

(註)

ハ海關其ノ他ノ中央收入ヲ以テ支辨スルコトナレルニ拘ハラヌ實ハ其ノ
餘裕ナキ爲東北四省ハ差當リ分擔支出ヲ餘儀ナクセラルルニ至ツタ結果、
今更學良ノ輕舉ニ對シテ不安ノ聲ヲ發スルニ至ツタト云フノチアル。

此ノ情報ハ軍費トシテ一千萬元ノ新大洋票ノ發行ヤ其ノ他平津銀行團トノ
交渉事實カラ推シテ大体信セラレ得ル確實性ヲ有ツモノト見ラレテキルカ
若シ東北カ出兵ニ關スル一切ノ軍費ト其ノ他ノ合作資金ヲ負擔スルトセハ
東北ノ財政ハ當然彌力上ニ窮乏シ、銀安ニヨツテ不況ノ極ニアル東北ハ益
不安ヲ増スコトナルヘキハ當然チアル。而シテ此ノ部内異論カ増大セハ
東北勢力ノ内部的結束カ動搖シ、折角ノ蔣張合作モ北平ニ於ケル副總司令
部開設ニ至ラヌシテ有耶無耶ニ終ラントモ限ラレヌ。
何レニセヨ近ク形勢ハ更ニ鮮明ナ輪廓ヲ現ハスニ至ルヘキモ中央並ニ東北
ノ政局ノ一轉換トシテ充分ナル注意ヲ肝要トスル。

亞細亞局

第一課

昭和五年七月拾日接受

本第二四四號

昭和五年十一月五日

在興々哈爾

領事 清水 八百

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

黑龍江省文武官ノ異動ニ關スル件

呼海鐵路公司總務處長顏宗魯ハ河北省警務處長ニ黑龍江騎兵第一旅長馬占山ハ黑河警備司令ニ夫々擬セラレ居ル次第ハ客月十八日附本第三一七號往信ヲ以テ報告シ置キタルカ當初王樹常ハ河北省政府主席ニ内定セル際當省官銀號總辦高雲昆ノ人材ヲ見込ミ其ノ來津ヲ促シタルモ

同人ハ職務上離江シ難キ事情アリ結果其ノ腹心前黑河警察廳長顏宗魯ヲ推薦シ顔ハ客月十九日天津ニ於テ河北省政府警務處長ニ就任セリト聞キ又高力別ニ王主席ニ推薦セル前廣信公司副經理翁作新及前龍江縣知事王蘊山ノ兩名ハ夫々保定及石家莊ノ公安局長ニ擬セラレ居ル事アリ駐江副司令官公署ハ客月三十一日附ヲ以テ馬占山ノ黑河警備司令轉任ニ伴フ左記當省高級武官ノ異動ヲ發表セリ

步兵第二旅長 王 南屏

見本職

任騎兵第一旅長兼利匪司令

呼倫貝爾警備司令

兼步兵第十五旅長

蘇 炳 文

見本職職

兼任歩兵第二旅長

歩兵第十五旅旅長 張文清

任歩兵第十五旅旅長代理

尙書月十一日附本第三一二號往信ヲ以テ報告セル歩兵第二旅長王南屏
免職ノ件ハ誤傳ナルコト判明セリ

右何等御參考迄報告ス

本信寫送附先

在上海代理公使、北平首席、奉天、吉林、哈爾濱、天津各總領事
滿洲里領事、關東廳

1311

報部

第一課

昭和五年十月八日接

公第四一〇號

昭和五年十一月七日

在滿洲里

領事館事務代理

豐

原

幸

夫

亞細亞局

外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

當地中華要人異動ニ關スル件

今般當地臚濱縣長兼呼倫貝爾市政籌備處駐滿代辦（在滿洲里外交主任）齊肇豫ハ黑河市政籌備處長ニ陞任シ縣長ノ後任ニハ木蘭縣長成

BII

友直任命セラレ不日着任ノ筈ナリ又外交主任ニハ新ニ李信任命セラレ本月三日着任四日齊代辦ヨリ事務引繼ヲ受ケ就任セリ
尙呼倫貝爾市政籌備處ハ今般官制ヲ改革シ從來五科ニ分タレ居リタルモノヲ三科ニ分チ新ニ左記三科長ノ任命ヲ見タリ

第一科（總務）

戰鎮震

第二科（邊務）

薛銓慶（秘書兼任）

第三科（外交）

趙士伯（露文秘書）

又當地東北無線電滿洲里分台長李俊堂ハ今般富錦台長ニ轉任シ後任ニハ總台ヨリ程拓松ヲ派遣シ來レリ

右報告ス

本信寫送付先

在華公使

在北平首席

奉天

哈爾賓

齊々哈爾

BII

REEL No. A-0734

0432

アジア歴史資料センター

本第三六號

昭和五年十一月十二日

在齊々哈爾

領事 清水 八百

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

黑龍江省政府教育廳長ノ任命ニ關スル件
前東北交通大學校長鄭林昇當省政府教育廳長ニ擬セラレ居ル次第ハ客
月二日附本第三〇一號往信ヲ以テ報告シ置タルカ今般東北政務委員會

ハ意々同人ヲ當省政府委員兼教育廳長ニ任命方決定セル由ナリ同人ノ
略歴左ノ如シ

鄭林昇 (Cheng Lin Kuo) (現代支那人名鑑所載)

黑龍江省拜泉縣人

經歷、衆議院議員兼衆議院秘書長

在錦州東北交通大學校長等ニ歷任セリ

右何等御參考迄報告ス

本領寫送附先

在上海代理公使、北平首席、奉天、吉林、哈爾濱各總領事
滿洲里、鄭家屯各領事、關東廳

官職



亞細亞局

本第三六二號

第一景

昭和五年七月廿五日接受

BI

昭和五年十一月十七日

在齊々哈爾

領事 清水 八百

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

黑龍江省政府教育廳長ノ就任ニ關スル件

鄭林昇カ當省政府委員兼教育廳長ニ任命セラレタル次第ハ本月十二日
附本第三五六號往信ヲ以テ報告シ置キタルカ同人ハ本月十五日教育廳
長ニ就任シ同廳長代理果常穆ヨリ正式ニ事務ノ引繼キヲ受ケ即日左記
ノ如ク新科長ヲ任名セリ

第一科長 曲 開

韶

第二科長 陳 昭 卓

第三科長 果 常 穆

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先 在上海代理公使 北平首席 奉天、吉、遼、各

總領事 滿洲里領事 關東廳

作職

川村

記

本機密第三七〇號

昭和五年十一月二十五日

在齊々哈爾

領事 清水八百

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

張壽增ノ黑河市政籌備處長ニ復任ノ件

黑河市政籌備處長張壽增蘇支會議委員ニ選任セラレ其後任ニ膠濱縣知事齊豫豫ヲ起用スルコトト内定セル次第ハ十月二十日附本第三一九號往信ヲ以テ報告シ置キタルカ昨二十一日玉外交主任本官ニ語ル處ニ依レハ張ハ客月十九日黑河發赴奉天當局ト打合ノ結果同人等一行ノ莫斯科行キハ一時見合スコトトナリ數日前哈爾濱經由再ヒ黑河ニ歸任セリ從テ齊豫豫黑河市政籌備處長轉任モ取罷メトナレリ云々

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先

在上海代理公使兼北平首席 奉天、哈爾濱、吉林各
總領事 滿州里領事 關東廳

昭和五年十二月廿八日

BH

官職

機密公第四二九號

昭和五年十一月二十五日

在滿洲里

領事館事務代理 豊原

幸

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

黑河市政籌備處長ニ關スル件

本件ニ關シ本月二十五日附在齊々哈爾清水領事發閣下宛機密第三七
〇號ヲ以テ報告ノ次第アリタル處本件ニ關シ呼倫貝爾市政籌備處駐



昭和五年十二月四日 機密 BI

官務

滿辦公處員果福培カ本月二十五日常館々員ニ對シ談レル處ニ依レハ

在滿洲里臚濱縣長齊肇豫カ黑河市政籌備處長ニ轉任スルコトハ事

實ニシテ既ニ正式ニ發令セラレ居ルモ省政府首席萬福麟ヨリ齊縣

長ニ對シ「現任黑河市政籌備處長張壽增ハ黑河ニ在住スルコト既

ニ長キヲ以テ殘務ノ整理其他ニ手間取ル爲メ一ヶ月滿洲里ニ於テ

待ツヘシ」トノ命令アリタル趣ナリ

尙臚濱縣長ノ後任ハタル木蘭縣長成友直ハ目下齊々哈爾ニテ待命

中ニシテ齊ノ就職次第就任ヲ見ルヘシ云々

ナル趣ナリ

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先

在齊々哈爾領事

BII

記

亞細亞局

公第四四七號

昭和五年十二月十日

在滿洲里

領事館事務代理

豐

原

幸

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

當地臚演縣長交送ニ關スル件

本件ニ關シテハ客月八日附公第四一〇號拙信ヲ以テ報告シ置キタル
處新任縣長成友直（前任黑龍江省木蘭縣長）ハ本月七日來滿八日事

昭和五年三月拾七日接發

記

官職

務引繼テ了シ前任官タル齊肇豫ハ黑河市政籌備處長ニ任セラレ本月
十一日一先齊々哈爾ニ赴^{キ約ナリ滞在}キ^{約ナリ滞在}管ニシテ黑河ニハ更ニ引返シチタヨリプ
ラゴウエシチエンスタ經由赴任スルコト、ナリ居ル趣ナリ
右報告ス

本信寫送付先

奉 天 哈爾濱 齊々哈爾

ブラゴウエシチエンスタ

BII

至達局

第一課

昭和六年壹月九日 達

本機密第四一五號

昭和五年十二月二十二日

在齊々哈爾

領事 清水 八百

外務大臣男爵 幣原 重 郎 殿

黑河市政籌備處長代理齊肇豫ノ赴任ニ關スル件

中蘇會議委員ニ選任セラレタル黑河市政籌備處長張壽增ノ莫斯科行一時延期セラレタル次第ハ客月二十三日附本機密第三七〇往信ヲ以テ報告セ
置キタルカ本月十五日滿洲里ヨリ來齊セル新任黑河市政籌備處長代理齊
肇豫一昨二十一日新任挨拶ノ爲本官ヲ來訪^訪シ語ル所ニ依レハ自分ハ曩

中蘇會議委員ニ任命セラレタル張壽增氏ニ代リ黑河市政籌備處長ノ事務
ヲ處理スルコトトナリ本月二十二日當地發滿洲里及知多ヲ經テ武市ヨリ
黑河ニ入ルヘタ張氏ハ自分ノ着任後當地ヲ經テ奉天ニ赴キ打合ノ上模様
ヲ見テ赴莫ノ筈ナリ云々

右何等御參考迄報告ス

本信寫送附先 在露大使 在中國代理公使 北平首席 奉天、吉林、

哈爾濱各總領事 武市、滿洲里各領事

BII

BI

官職